

带状疱疹予防接種説明書

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水泡が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。带状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

● 接種ワクチンについて・・・下記の2種類から選択できます。(厚生労働省資料より抜粋)

	生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK社)
接種回数	1回	2回
接種方法	皮下	筋肉内
接種スケジュール	—	・通常2か月の間隔をおいて2回接種(標準的な接種間隔は1回目接種の2か月後の同日以降から6か月後の翌日までです) ・病気や治療により免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。
接種を受けることができない方	病気や治療によって、免疫が低下している方は接種できません。	免疫の状態に関わらず接種可能
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固療法を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。
他のワクチンとの接種間隔	他の生ワクチン(注射剤)の接種を受けた場合は、27日以上間隔をあける。	—

※合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

● 带状疱疹のワクチンの効果と主な副反応について

		生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK社)
带状疱疹に対するワクチンの効果	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	—	7割程度の予防効果
主な副反応の出現割合 ※はワクチンを接種した部位の症状	70%以上	—	疼痛※
	30%以上	発赤※	発赤※、筋肉痛、疲労
	10%以上	そう痒感※、熱感※、腫脹※、疼痛※、硬結※	頭痛、腫脹※、悪寒、発熱、胃腸症状
	1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感※、倦怠感、その他の疼痛
	頻度不明	アナフィラキシー、血小板減少紫斑病、無菌性髄膜炎	ショック、アナフィラキシー

● ほかのワクチンとの同時接種について

带状疱疹ワクチンは、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチンと同時接種が可能です。生ワクチンについては、ほかのワクチンとは27日以上の間隔を置いて接種してください。

裏面もご確認ください

● 接種を受ける前に

(1) 一般的注意

- ① 予診票は、接種をする医師が予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を伝えてください。
- ② 医師の診察・説明を受けた後、予診票内にある「ワクチン予防接種希望書」に署名してください。本人の意思が確認できない場合は、公費負担の対象にはなりません。手が不自由などの理由で自署できない場合の予診票の署名については、家族または常時介護している方（ヘルパー等）が代筆することはできません。しかし、主治医であったとしても医師や看護師は代筆できません。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（一般的に体温が 37.5℃以上）
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ このワクチンの成分によって、過去にアナフィラキシー（接種後 30 分以内に出現する血圧低下、呼吸困難や全身性のじんましんを伴うアレルギー反応）を起こしたことがある人
- ④ 【水痘生ワクチン接種希望】妊娠している、または妊娠している可能性がある人
- ⑤ 【水痘生ワクチン接種希望】先天性及び後天性免疫不全状態の人
例えば、急性及び慢性白血病、リンパ腫、骨髄やリンパ系に影響を与えるその他疾患、HIV 感染または AIDS による免疫抑制状態、細胞性免疫不全などによる
- ⑥ 【水痘生ワクチン接種希望】副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤などの治療を受けており、明らかに免疫抑制状態の人
- ⑦ その他、予防接種を行うことが不適当な状態と医師が判断した人

(3) 予防接種を受ける際に、医師への相談が必要な人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある人
- ② 予防接種後 2 日以内に発熱したことがある人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状になったことがある人
- ③ このワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある人
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑥ 【生ワクチン接種希望】輸血やガンマグロブリンの注射を受けた人は治療後 3 か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた人は治療後 6 か月以上おいて接種する
- ⑦ 【組換えワクチン接種希望】授乳中、妊婦または妊娠している可能性がある人、血小板減少症や凝固障害を有する人、抗凝固療法を実施されている人

● 接種を受けた後の注意

- (1) 接種後 30 分間は接種医療施設内で体調の変化を観察し、体調不良時は看護師にお伝えください。
- (2) 接種後は注射部位を清潔に保ち、当日は激しい運動や多量飲酒は避けてください。また、入浴は差し支えありませんが、注射部位はこすらないでください。
- (3) 生ワクチン接種後 4 週間、不活化ワクチン接種後 1 週間は副反応の出現にご注意ください。
- (4) 接種後に、注射部位の異常や体調が悪くなった場合は、速やかに予防接種を行った医師の診察を受け、町の担当課へご連絡ください。
- (5) 【水痘生ワクチン接種希望】接種後 2 ヶ月間は、妊娠しないように注意してください。

● その他

- ・ 医療機関より交付された予防接種済証は大切に保管してください。
- ・ 万一、健康被害が生じた場合は、救済制度の適応となる場合があります。制度の利用を申し込む場合は、予防接種を受けた後に矢巾町役場健康長寿課にご相談ください。

【担当】 矢巾町健康長寿課健康づくり推進係

電話 019-611-2825 受付時間 8:30~17:15（土日祝日年末年始を除く）